

【本論文】

高知市鏡川水系初記録の魚類 4 種

高橋弘明¹¹株式会社 相愛 〒780-0002 高知県高知市重倉 266-2

(2026 年 5 月 15 日受付, 2026 年 6 月 11 日受理, 2026 年 6 月 15 日公開)

Hiroaki Takahashi*. 2026. Four fish species recorded for the first time in the Kagami River system, Kochi City, Shikoku, Japan. NANYOSEIBUTSU, 22: 9–15.

*Corresponding author: So-ai Ltd., 266-2 Shigekura, Kochi City, Kochi 780-0002
(e-mail: h.takahashi@soai-net.co.jp)

鏡川は高知市土佐山の高尻木山（標高 897.4m）に端を発し、高知市を貫流したのちに浦戸湾に注ぐ、幹線流路延長 30.5 km、流域面積 170 km² の二級河川である（高知市環境政策課, 2017）。全流程が高知市を貫流する鏡川水系では、淡水域においては比較的古くから魚類相調査が行われており、これまでに多くの報告がなされている（岡村ほか, 1976, 1990, 1992；遠藤ほか, 2009）。一方、汽水域における魚類相調査の事例は少なく、まとまった報告としては田井野ほか（2003）が唯一のものである。このほか、特定の魚種に関しては、高橋（2015）がトサシマドジョウ *Cobitis tosaensis* Takahashi, 2026 を、町田・丸林（2016）がアカメ *Lates japonicus* Katayama and Taki, 1984 を、岡村ほか（2024）がイドミミズハゼ *Luciogobius pallidus* Regan, 1940 を、岡村（2025）がアミメカワヨウジ *Hippichthys heptagonus* Bleeker, 1849 を報告している。これらをあわせると、鏡川水系からこれまでに記録された魚類は 20 目 47 科 106 種となる。この度、これらの記録にない魚類 3 種に加え、田井野ほか（2003）が目録として報告しているが、標本に基づく詳細な報告のなかった 1 種を加えた 4 種の魚類が得られたため報告する。

材料と方法

本報告に用いた標本は、鏡川水系において著者が非定期的に行っている手網による採集調査と、高知県林業振興・環境部自然共生課による野生生物分布調査委託業務の一環として 2024 年 9 月 16 日および同 10 月 19 日に行われた汽水域における魚類観察会で参加者により採集されたものである。採集された魚類は生かして研究室に持ち帰り、クロールオイルで麻酔した後に 3%ホルマリンで薬殺し、生鮮時の写真を撮影した。その後、10%ホルマリンで固定し、1 週間以上経過してから 70%エタノール水溶液に移し替えた。作成した標本はすべて高知大学海洋生物学研究室魚類標本（BSKU）として登録・保管した。魚類の分類は本村（2026）の日本産魚類目録 ver.39 にしたがいが、種の同定ならびに計数・計測方法は中坊編（2013）を基本としたが、体サイズ等から未成魚と推定されるカラドジョウ *Misgurnus dabryanus* (Dabry de Thiersant, 1872)については、高橋・清水（2016）を参考にした。なお、ここでいう尾鰭前不分枝軟条とは尾鰭前方の尾柄部背側の肉質隆起に埋没した微小な棒状骨列を指し、観察はアリザリンレッド染色を施したうえで双眼実体顕微鏡の透過光を用いて行った。

種 の 記 録

コイ目 Cypriniformes

ドジョウ科 Cobitidae

カラドジョウ *Misgurnus dabryanus* (Dabry de Thiersant, 1872) (図 1)

BSKU 137909, 4 個体 (33.5–53.1mm SL: 標準体長, 以下省略), 高知県高知市久礼野鏡川水系重倉川左岸用水路 (図 2, 33.6105N, 133.5678E), 2017 年 9 月 30 日採集, 採集者: 高橋弘明. 背鰭 iii, 7, 臀鰭 iii, 5–6, 胸鰭 i, 11, 腹鰭 ii, 5–6, 尾鰭 8+8, 尾鰭前不分枝軟条数 33–36. 体高 (背鰭起点) / 体長 16.1–18.0 (平均 17.1) %, 腹鰭前長 / 体長 58.7–63.1 (平均

61.1) %, 胸鰭長 / 体長 14.3–17.4 (平均 16.1) %, 尾柄高 / 体長 11.0–15.7 (平均 12.9) %, 尾柄高 / 尾柄長 61.1–95.7 (平均 76.7) %, 第 3 口ひげ長 / 頭長 31.1–61.5 (平均 36.4) %.

調査標本は胸鰭分枝軟条数が 11 であること, 尾鰭前不分枝軟条数が 33–36 であること, および上記の計測値が概ね高橋・清水 (2016) の示したカラドジョウ稚魚の形態的特徴と一致する. なお, 細谷 (2013) によればカラドジョウの尾柄高 / 尾柄長は 70% 以上とされているが, 今回の標本中 2 個体は尾柄高 / 尾柄長がそれぞれ 61.1%, 67.6% とこれを下回った. しかし, 今回得られた標本はいずれも骨質盤等の二次性徴に係る特徴を発現しておらず, 前述のとおり



図 1. カラドジョウ *Misgurnus dabryanus* (BSKU 137909, 53.1mm SL)



図 2. カラドジョウ *Misgurnus dabryanus* の採集地点 (高知県高知市久礼野鏡川水系重倉川左岸用水路, 2023 年 5 月 26 日撮影, 標本採集時と状況はほとんど変化していない)

その他の形質がカラドジョウと一致することから成長過程における変異とみなした。高知県におけるカラドジョウの記録については、高橋 (2023) が「高知県の淡水魚類」の中で、最近 10 年間の変化として、高知市と南国市におけるカラドジョウの分布拡大について言及しているものの、詳細については不明であった。本種は朝鮮半島、中国大陸中南部原産の国外外来種であり、北海道、沖縄を除く国内各地から記録されている (中島・内山, 2017)。今回、本種が採集された地点は市街地や平野部の農地ではなく、鏡川源流集水域の一部を成す中山間地の比較的自然豊かな地域であることから、鏡川水系においては既に相当広範囲に亘って本種が分布を拡大している可能性がある。今後、在来のだジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor, 1842) との競合や置き換わり等が懸念され、早急な実態把握が望まれる。

ハゼ目 Gobiiformes

カワアナゴ科 Eleotridae

チチブモドキ *Eleotris acanthopoma* Bleeker, 1853 (図 3)

BSKU 137910, 1 個体 (46.0mm SL), 高知県高知市筆山町鏡川右岸 (図 4, 33.5529N, 133.5362E), 2024 年 9 月 16 日採集, 採集者: 高知県野生生物分布調査委託業務の汽水域における魚類観察会参加者。背鰭 IV-I, 8, 臀鰭 I, 8, 胸鰭 17 (左), 16 (右), 腹鰭 I, 5, 縦列鱗数 51。眼下に 5 本の横列孔器があり、このう

ち 2 本目と 4 本目はその下の縦列孔器を越えるが 3 本目と 5 本目は縦列孔器を越えない。鰓蓋上部と下部を走る孔器は後端で接触しない (図 5)。体は茶褐色で第 1 背鰭は黄色味を帯びた半透明で基部と中央部付近に 2 本の暗色縦帯がある。

調査標本は明仁ほか (2013) の示すチチブモドキの形態的特徴に一致したため本種と同定された。本種は浦戸湾から坂本ほか (2009) によって記録されているが、鏡川では田井野ほか (2003) が出現種リストに挙げているものの、標本の所在や形態的特徴については不明であった。したがって、本報告は標本に基づく鏡川水系からの初記録となる。なお、本種は高知県版レッドデータブックにおいて準絶滅危惧種 (NT) に選定されている (高知県レッドデータブック (動物編) 改訂事業改訂委員会編, 2018)。

ニザダイ目 Acanthuriformes

フエダイ科 Lutjanidae

ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus* (Forskål, 1775) (図 6)

BSKU 137911, 1 個体 (54.8mm SL), 高知県高知市筆山町鏡川右岸 (図 4, 33.5529N, 133.5362E), 2024 年 10 月 19 日採集, 採集者: 高知県野生生物分布調査委託業務の汽水域における魚類観察会参加者。背鰭 X, 14, 臀鰭 III, 8, 胸鰭 16 (左右), 腹鰭 I, 5, 尾鰭 8+8, 側線上有孔鱗数 49, 鰓耙数 6+12。体側に 8 本の暗色横帯を有し、その間隔幅は横帯の幅よりも狭



図 3. チチブモドキ *Eleotris acanthopoma* (BSKU 137910, 46.0mm SL)



図 4. チチブモドキ *Eleotris acanthopoma*, ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus*, クロホシマン
ジウダイ *Scatophagus argus* の採集地点 (高知市筆山町鏡川右岸, 2024 年 9 月 16 日撮影)

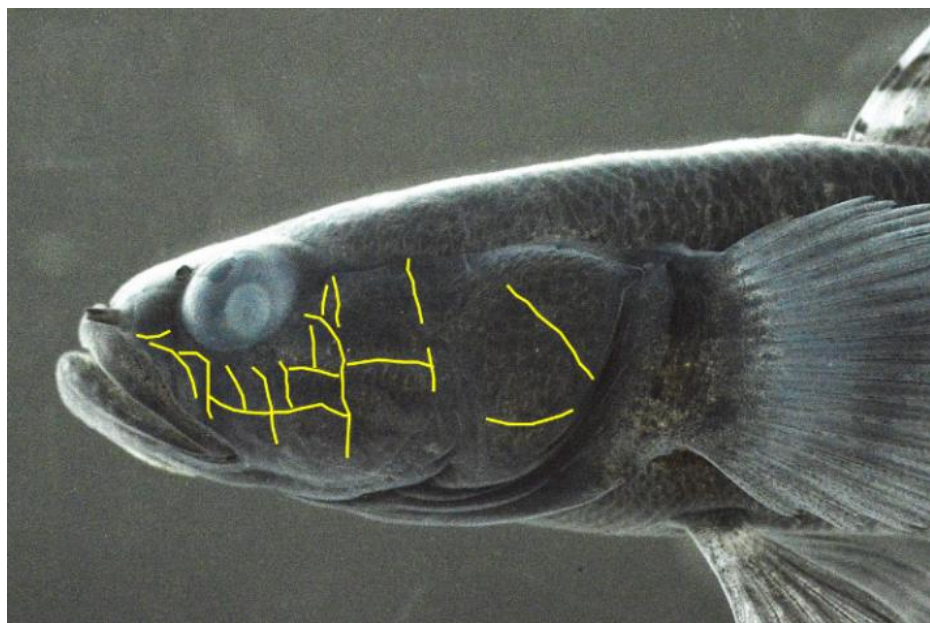


図 5. チチブモドキ *Eleotris acanthopoma* (BSKU 137910, 46.0mm SL) 頭部側面の孔器列 (図中の
黄色線で示した部分)

い。背鰭中央部からやや先端寄りの棘条とその間の鰭膜、腹鰭基部から先端部までの距離の 4/5 程の鰭条と鰭膜および臀鰭棘基部周辺は橙色を帯びる。眼下から前鰓蓋骨、鰓蓋周辺は金色身を帯び、前上顎骨の中間部直上から前鰓蓋骨後端までの眼下線を結ぶ頬部と眼下中央部下から前鰓蓋骨角部を結ぶ頬部に輝青色の縦帯がある。第 2 背鰭、尾鰭、臀鰭の後部 1/3 程の部

分は生時やや黄色味を帯びた半透明。

調査標本は島田 (2013a) および岩槻 (1997) の示すゴマフエダイ幼期の形態的特徴に一致したため本種と同定された。高知県下で本種は沿岸域や汽水域で比較的普通にみられ、鏡川が流入する浦戸湾からも古くから記録されている (蒲原, 1958; 坂本ほか, 2009)。



図 6. ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus* (BSKU 137911, 54.8mm SL)

クロホシマンジュウダイ科 Scatophagidae

クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus* (Linnaeus, 1766) (図 7)

BSKU 137912, 1 個体 (39.6mm SL), 高知県高知市天筆山町鏡川右岸 (図 4, 33.5529N, 133.5362E), 2024 年 10 月 19 日採集, 採集者: 高知県野生生物分布調査委託業務の汽水域における魚類観察会参加者. 背鰭 XI, 17, 臀鰭 IV, 15, 胸鰭 17, 腹鰭 I, 5, 尾鰭 8+8. 体は著しく側扁し, 体高は高く六角型に近い体型. 左右の鰓膜は峡部で互いに癒合する. 体色は金色味を帯びた明褐色で体側に瞳大一眼径大の黒色斑が散在する. 第 1 背鰭第 2-第 7 棘の鰭膜の一部に橙色斑がある.

調査標本は島田 (2013b) の示すクロホシマンジュウダイの形態的特徴に概ね一致することから本種と同定された. 高知県下では近年個体数が増加しており, 鏡川の流入する浦戸湾内でもトリクチス幼生から成魚に至る各成長段階の個体が確認されている (片山ほか, 2009; 町田・山川, 2005; 坂本ほか, 2009). 汽水域における魚類観察会でも, 9 月, 10 月とも標本とした個体以外にトリクチス幼生を含む稚魚や未成魚が多く確認された.

謝 辞

本稿をまとめるにあたり, 高知県林業振興・環境部自然共生課による野生生物分布調査委託業務の受注者として, 観察会の事務局を担当された NPO 法人四国自然史科学研究センターの葦田恵美子さん, 観察会の運営を補助していただいた株式会社相愛の近藤英文さん, 高知県林業振興・環境部兼高知大学理工学部生物科学科海洋生物学研究室短期研究員の岡村恭平さん, BSKU 魚類標本コレクションボランティア兼鏡川水生生物研究会の太田 翔さん, 鏡川水生生物研究会兼土佐高等学校の小野 暁さんにお礼申し上げる.

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ 重目. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 1347-1608, 2109-2211.
- 遠藤広光・清沢遼太郎・町田吉彦. 2009. 第 17 章鏡川淡水域の魚類相. 高知市総合調査第 1 編 「地域の自然」. 高知市・国立大学法人高知大学, 高



図 7. クロホシマンジュウダイ *Scatophagus argus* (BSKU 137912, 39.6mm SL)

- 知. 389–413.
- 細谷和海. 2013. 79. ドジョウ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 328–334, 1819–1822.
- 岩槻幸雄. 1997. フェダイ科. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 山溪カラー名鑑日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 329–339.
- 蒲原稔治. 1958. 浦戸湾内の魚類. 高知大学学術研究報告, 7(13): 1–11.
- 片山英理・坂本匡祥・渡邊博満・中村和喜・町田吉彦. 2009. 高知市浦戸湾で得られたクロホシマンジュウダイの成魚と香南市香宗川で得られた幼魚 (スズキ目クロホシマンジュウダイ科). 四国自然史科学研究, (5): 11–14.
- 高知県レッドデータブック (動物編) 改訂事業改訂委員会 (編). 2018. 高知県レッドデータブック 2018 動物編. 高知県林業振興・環境部環境共生課, 高知. 279pp+31plts.
- 高知市環境政策課. 2017. 鏡川～森と海とまちをつなぐ環境軸 2017 鏡川清流保全基本計画. 高知市環境政策課, 高知. 140pp.
- 町田吉彦・丸林友文. 2016. 高知市桂浜水族館に寄贈されたアカメとそれらの産地からの追加情報 (スズキ目: アカメ科). 四国自然史科学研究, (9): 17–20.
- 町田吉彦・山川 武. 2005. 浦戸湾初記録を含む高知県産クロホシマンジュウダイの標本 (スズキ目クロホシマンジュウダイ科). 四国自然史科学研究, (2): 58–62.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 39. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>.
- 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. Xlix+2428pp+24plts.
- 中島 淳・内山りゅう. 2017. 日本のドジョウ. 山と溪谷社, 東京. 224pp.
- 岡村恭平. 2025. 高知県鏡川から得られたアミメカワヨウジ. 南予生物フィールドノート: 25027.
- 岡村恭平・山上竜生・高橋弘明・甲斐嘉晃・遠藤広光. 2024. 高知県におけるイドミミズハゼ種群の分布・生息状況および形態的・遺伝的特徴. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 43: 20–37.

- 岡村 収・佐々木邦夫・三谷 寛・土居敏幸・浜川智明・武山直史・篠原直哉. 1990. 5. 鏡川水系の魚類および甲殻類. 鏡川環境調査対策協議会 (編), 鏡川水系の自然環境 水質, 底質ならびに生物に関する調査報告. 鏡川環境調査対策協議会, 高知. 91-115.
- 岡村 収・為家節弥・青木博幸. 1976. 4. 鏡川の魚類. 岡村 収 (編), 鏡川の生物と環境に関する総合調査—特に塚の原地区の放出に伴う影響について—. 1975 年度委託調査, 高知県, 高知. 81-128.
- 岡村 収・碓井利明・宮原 一・山下慎吾・和田浩史郎. 1992. 4. 鏡川水系の魚類および甲殻類. 高知大学理学部海洋生物学講座 (編), 鏡川水系の生物と環境に関する総合調査Ⅱ—1989・1990 年度調査—. 高知県土木部河川課, 高知. 99-138.
- 坂本匡祥・町田吉彦・遠藤広光. 2009. 第 18 章 浦戸湾とその流入河川河口域の魚類相. 高知市・国立大学法人高知大学 (編). 高知市総合調査第 1 編「地域の自然」. 高知市・国立大学法人高知大学, 高知. 415-474.
- 島田和彦. 2013a. 240. フエダイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 913-930, 2001-2004.
- 島田和彦. 2013b. 327. クロホシマンジュウダイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. 1612, 2212.
- 田井野清也・木下 泉・細木光夫. 2003. 鏡川汽水域における魚類の生育場として重要なコアマモ群落の保全に関する研究. 公益財団法人河川財団河川基金成果報告書 02c (107), 東京. 29pp.
- 高橋弘明. 2015. 高知県におけるシマドジョウ属 2 種の分布・生息状況および形態的特徴. 日本生物地理学会会報, 70: 73-86.
- 高橋弘明. 2023. 高知県の淡水魚類. こうちミュージアムネットワーク (編), 牧野を生んだ土佐の自然～高知県の自然環境 2023～, 高知. 30-31.
- 高橋弘明・清水孝昭. 2016. 愛媛県で採集された国外移入種カラドジョウの仔稚魚の形態. 南予生物, 18: 27-33.